

## 2-1-5 NGO アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN)

アジアでは、自然災害の軽減のため、政府、国際機関のみならず NGO が積極的な役割を果たしている。これらの NGO は、災害直後の救援活動はもとより復旧・復興活動、さらには普段からの防災教育や普及啓発活動といった災害予防の面でも、地元に着した支援活動を展開している。他方、NGO 個々の対応には限度があり、一層の行動力の向上や関係機関との連携が求められている。

アジア防災センターでは、アジア地域の防災・災害救援 NGO 同士が国境を越えてネットワーク化し、協力することを促進すべく、平成 14 年 2 月、国連人道問題調整事務所神戸と共催で、アジア地域の災害関連 NGO16 カ国 35 人の参加のもと、「アジア地域の防災のための NGO のネットワークと協力に関するワークショップ」を開催した。ワークショップを通じて、参加者の合意のもと、アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN、Asian Disaster Reduction and Response Network) を立ち上げ、相互の協力を促進していくこととなった。

活動の一環として、ADRRN のためのデータベースがアジア防災センターのホームページ内に立ち上げられ、各 NGO の機構紹介を行う ADRRN パートナーデータベースをはじめ、メンバー NGO の活動やイベントの紹介ページ、メンバー間の意見交換のための掲示板コーナーなどが設けられた。これらのページには登録 NGO それぞれにア

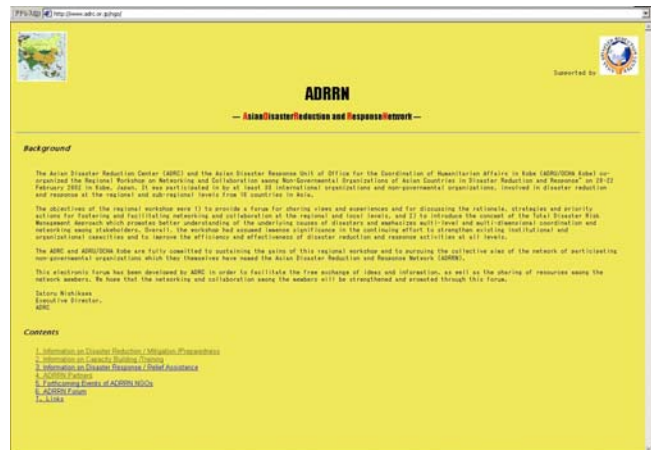


図 2-1-6-1 ADRRN ウェブフォーラム トップページ

クセス ID とパスワードが与えられ、インターネットを通して、メンバー NGO が常時、情報の更新をすることができるようになっている。

平成 15 年 12 月、ADRRN の主要メンバーが集まり、ADRRN の活動を推進するための会合を開催した。会合では、ネットワークを通じて何ができるのか、ネットワーク活動を推進するためには何が必要か、具体的にどのような活動を推進していくべきかなどについて、グループワークなどを通じて積極的な話し合いが行われた。今後取り組むべき課題として、組織としての枠組みづくりの必要性があげられ、まずネットワークの基本的立場・理念・活動方針などを示したステートメント作成に取り組むこととなった。また平成 17 年 1 月に開催される国連防災世界会議においてネットワークの活動を紹介する展示などを行い、さらなる活性化をはかることとなった。